学力向上のための重点プラン　　新宿区立落合第二小学校

【中間評価】

中間評価	
・成果と課題	・課題への方策等
【第１学年】 国ワークシートなどを活用して、字形や筆順に気を付けて、丁寧に平仮名やカタカナを練習することができた。助詞の使い方については、視写の時間を活用するなどして取り組んだ。正しく活用していけるよう、今後も継続して指導が必要である。 算１０までの数、２０より大きい数など、たし算やひき算の反復学習を通して、繰り上がりや繰り下がりの仕方、数の構成の理解が深まってきた。一方、文章問題を正しく理解し、立式する力を高めていく必要がある。	国平仮名やカタカナを十分習得できていない児童には手元に平仮名表（カタカナ表）を置くなどして支援する。文章力を高めるため、「あのねノート」を活用し書くことに慣れさせていく。語彙力を高めるために、「言葉の宝箱」を活用していく。 算繰り上がりや繰り下がりのある計算についての理解を深めるため、デジタルドリルを有効活用していく。文章問題を正しく理解するために、「分かっていること」「求めること」について読み取り、丁寧に指導する。また、ブロックなどの具体物を、操作しながら立式できるように支援する。
【第２学年】 国ドリル等の反復学習を通して、字形に気を付けて、正しく書く力が高まってきた。自分の考えを文章で表現できるようになってきたので、さらに分かりやすく詳しく表現するための語彙を増やしていく必要がある。 算たし算やひき算の筆算や、３けたの数の加減計算の反復学習を通して、繰り上がりや繰り下がりの仕方、１０や１００を単位とする数の構成の理解が深まってきた。一方、文章問題を正しく理解し、立式する力をさらに高めていく必要がある。	国語彙力を高めるために、ことばあそびや語彙表を用いた学習を取り入れ支援する。擬態語や擬声語、様子を表す言葉（形容詞）などを「言葉の宝箱」にまとめ、意識して活用できるようにする。 算文章問題を正しく理解するために、問題の内容を絵や図に表すことを丁寧に指導する。また、おはじきや数カードなどの具体物を、操作しながら立式できるように支援する。
【第３学年】 国語彙が少なく、物語を読む中で言葉の意味が分からないため、文章を読み取る力に課題がある。語彙を増やしていく工夫を取り入れる必要がある。また、教科書等の例文に言葉を当てはめ文章を書くことはできるものの、その中に自分の考えを入れ、広げることが難しい。 算かけ算の筆算や、毎日の２５マス計算でのかけ算わり算の計算の反復練習を通して、基本的な計算についてはだいぶ理解している。一方で文章をしっかり読み解く力が弱く、立式に課題がある。また自分の考えの根拠をもって説明する力を伸ばす必要がある。	国国語辞典を日頃から活用することで、分からない言葉が出てきたときに国語辞典を引く習慣を付け、語彙力を高めていく。また、漢字学習で熟語に触れる機会を作り、熟語の意味を確認しながら適切に言葉を使えるように指導していく。日常的に日記や感想文など、短い文章で思いや考えを書く練習をしていく。 算教科書の挿絵や ICT 機器を活用することで、文章問題から正しく立式することができるように指導する。また、３学期の「□を使った式」の学習や復習をする際に、もう一度 ICT を活用して、具体的な操作などを取り入れることでわり算の意味をより理解できるよう支援していく。

【第４学年】 国文章中に意味の分からない言葉を見付けたとき、教師からの指示がなくても国語辞典で調べている児童が増え、言葉への興味関心の高まりが見られた。しかし一部の児童に留まっている。 算わり算の反復練習を継続することで計算技能や四則計算についてはしっかり理解をしている。また、授業の中で複数の考え方を考えたり、友達のやり方から気付く活動を取り入れたりすることで問題を多面的に捉えて計算できるようになってきた。しかし、計算の途中のケアレスミスが目立つ。検算を活用しながら正確な計算技能を身に付けていく必要がある。	国児童の中には、意味を知っているつもりの児童もいる可能性がある。意味を押さえたい言葉は教師が取り上げて児童に問うことを通して、「意味を調べる機会」を増やしていく。 算計算のケアレスミスの要因として筆算で書いた数字のずれや繰り上がり・繰り下がりのやり忘れがあるため、マスを意識して筆算を書くこと、繰り上がり・繰り下がりの数字をしっかりと記入することなどのノート指導の徹底を図る。また計算問題の反復練習を行う際に検算も取り入れる習慣を付けていくようにする。
【第５学年】 国短作文を書く時間を確保し、モデル文を提示したり、「はじめ」「中」「おわり」の柱立てを意識したりすることで、表現の幅が広がってきた。また、タブレットを用いて書くことで、間違いに気付いたときの直しの負担が少なくなり、書くことへの意欲は高まってきた。辞書で調べる機会は減ってきている。 算直方体や立方体の体積や図形の角の学習で具体物や ICT を活用することで公式の意味を考え活用したり既習の学習を活かし考えたりすることが出来るようになっている。文章問題を表にしたり数直線に表現したりして立式することに課題がある。	国タブレットを用いて表現する課題と、自分でレイアウトや字の大きさ等も考えながら書いて表現する課題で、それぞれのよさを理解しながらどちらも取り組めるようにする。手書きのときには、すぐに手に届く位置に辞書や「言葉の宝箱」を準備して、自分で調べ、語彙力を高めることを習慣化していく。 算文章問題を扱う際には、場面絵や教師と児童とのやり取りを通して、具体的に場面を想像できるようにする。表や数直線と式を結び付け、式の意味をより理解できるようにする。
【第６学年】 国朝学習やドリル学習において、漢字、言語、短作文の学習を継続してきたことで、「書くこと」への抵抗感が少しずつ減ってきた。漢字を正しく書くことや条件に沿って文章を書くことについては、個人差が大きい。 算個人差はあるものの基礎的な四則演算については多くの児童が正しく答えを求めることができる。一方で、答えを求めることを優先してしまい、公式の意味を考えたり、既習の学習事項を生かして考えたりすることに課題がある。	国様々なテーマや条件に沿って短作文をする機会を多く設定していく。漢字を正しく書くことが苦手な児童については、定期的に実施する漢字テストに向けて計画的に学習できるように声を掛ける。成果が出せるように支援することで自信をもてるようにする。 算答えだけでなく、答えを出す道筋を説明できるように考える時間や考えを共有する時間を確保する。また、既習の学習内容を生かして考えている児童を意図的に指名し発表させることで考えのよさを全体で共有し、自分に生かすことができるようにする。
【若葉学級】 ・小集団を生かした個別指導により、落ち着いて学	・児童の実態と習熟度に合わせて、国算の教科グルー

習に向かうことができた。自然あふれる落ニ小、地域との結び付きという本校の特長を生かし、畑、生け花体験等の実体験の機会を多くもち、言語力・表現力を育成している。教科学習における理解の個人差が大きいことが課題である。	プを編成し、よりきめ細やかな個別指導を行う。 ・行事を生かし、丁寧な事前指導で責任感や人前で話す力、時間の見通しをもって主体的に取り組む力が身に付くよう支援していく。